

# 西川とレトロ看板建築をめぐる

西大寺観音院を囲うように流れる「西川(鴨越用水)」。1672年に西大寺村及び金岡新田の灌漑用水として築造、のち、沖新田の干拓に伴い延長された。吉井川の鴨越堰より取水し、新堀川をサイホンの定理で交差。西大寺の市街地を還流し、田畑を潤して児島湾に注いでいる。1900年の地図を見ると「西川」を境に市街地と田畑がはっきりとわかれている。「西川」には大小様々な橋が架けられ、小船が行き交っていた。今も14の橋が架かる西川沿いには当時の生活を感じる景観が残っている。

## オススメ散策ルート 所要時間[徒歩約30分]



**1 五福通り**  
数々の映画のロケ地となったレトロな看板建築の町並み。西大寺は門前町であると同時に、江戸時代には吉井川を下る商船の川港終点として発展。大坂方面と備前・美作との物資の行来が多く、門前・問屋・商業・港町が渾然一体となっていた。今も残る江戸、明治、大正時代の建築は、個性的なカフェやアトリエなどにも活用されている。

**旧河本町の町並みへ**  
白壁に格子窓の家が立ち並び、港町として栄えた面影が残っている。



**2 雁木と水道柱**  
雁木は当時、高瀬舟の荷の上げ下ろしに使った石の階段。降り口には1922年4月に町役場で上水道通水式を行った鉄カバーの水道柱が残っている。



**3 橋とデザイン**  
かつて生活に密着していた西川は、飲めるほど水が綺麗でホテルも生息していた。橋の照明灯、親柱、欄干には時代ごとのデザインがみられ、灯がともる夕刻も風情が良い。川沿いを歩けば昔の暮らしを彷彿とさせる風景が続く。



**5 愛の灯「柳湯」**  
自然石でできた千年橋(1971年)の側にある元銭湯。2011年末に借しまれつつ廃業したが、外観はそのまま当時の面影を今に残す。この道は西大寺観音院 仁王門まで続き「わっしょい通り」とも呼ばれる。両備バスセンターから観音院までの参道でもあり2月の西大寺会陽(裸祭り)には、裸男衆が「わっしょい! わっしょい!」と練り歩く。

**旧渡場町の町並みへ**  
かつては渡場町と呼ばれ郵便局名や町内会名などには今でも地名として生きている。所々に土地の傾斜を生かした建築物が残っている。



**4 西大寺文化資料館**  
開館:日曜日(詳細はホームページ参照)  
西大寺は戦災に合わなかったため、文化財が多数保存されている。寛政から昭和期の宝木、観音院本堂模型、高瀬舟、民具などの資料を展示している。



**“いちごの産地” 西大寺。** 観音院から車で5分、いちご狩りが楽しめる西大寺は温暖な気候から岡山県内でも屈指の「いちご」の産地。観音院を開基したお姫様「皆足姫(みなたるひめ)」の名がついた観音院公認の「皆足姫いちご」。シーズンになれば、五福通りのお店ではパフェなども提供される。毎年11月～6月初旬までいちご狩りが楽しめる。 皆足姫いちご 検索

